

# 農に生きる

～Challenge to my Dreams～

三島甘藷生産者

ひらの

平野光直さん (48)

三島市佐野在住。「三島甘藷」や「三島馬鈴薯」などを中心に、約9ヘクタールのほ場で、地域ブランド野菜「箱根西麓三島野菜」を栽培。平成13年に家業を継いで就農。三島甘藷部会の部会長を務める。



出荷箱にはサポーター企業名を記し支援の取り組みをPR



バンデロールと共同開催した収穫体験



甘藷祭りの様子

## 選ばれ続ける野菜を生産する

### 「イモリーダーひらの」誕生

「就農当初はとにかく必死で、ついでいくのがやっとだった」。そう話す平野光直さんですが、現在は地域農業をけん引する存在です。きっかけは青壮年部への加入でした。「青壮年部活動で地域の先輩生産者と深く関わるようになり、産地振興への思いが膨らんでいった」と話します。平成16年には、生産者グループ「箱根ファーマーズカントリー」を仲間と結成。「山北<sup>※</sup>復活」を掲げ、「三島甘藷のブランド力を取り戻そうと」「甘藷祭り」を開催し、地元農産物を地元で応援する地域コミュニティづくりに励みました。

### 三島甘藷を消費者の「推し」野菜に

平野さんは現在、三島甘藷部会長を務めています。同部会設立のきっかけは、「甘藷祭り」でした。同イベントを通じて大手コンビニとの商品タイアップが決まり、運営を担う有志グループを組織化しました。部会として生産が安定し、販売が軌道に乗りはじめると、商品の魅せ方を工夫。品質や味の良さは当たり前の中、さまざまな角度から価値や魅力をどう引き出しPRしていくのかを考え、消費者が三島甘藷を「推せる」仕組みづくりを進めています。その一つとして、三島甘藷商品の認知度向上や親しみを促す取り組みとして、知名度が高い企業とタッグを組み、イメージを高める取り組みを実施。併せて、SNSでの情報発信と通販サイト「JAタウン」への誘導を並行し

### 生産者満足度ナンバーワンの街へ

「箱根西麓三島野菜を買う理由や応援する価値を伝えることができたとき、消費者も生産者も高い満足度でサイクルするビジネスモデルが構築されるはず」と語る平野さん。そんな理想の農業を目指し、地域農業のリーダーとして働きかけを続けています。

※「山」は箱根山、「北」は旧北上農業協同組合に由来。昭和初期には、全国のサツマイモが集まる関西の市場で日本の評価を受けていたといわれています。



## 三島甘藷

「箱根西麓三島野菜」の一つで、「しずおか食セレクション」や「三島ブランド」に認定されています。ほくほくとした味わいの「紅あずま」、しっとりと甘みが強い「紅はるか」、きめ細かく滑らかな舌触りの「シルクスweet」の3品種があり、さまざまなおいしさを楽しめます。

## 営農アドバイザーから

三島函南地区営農販売課

たちばな こうへい  
立花 耕平

三島甘藷部会が広く事業を展開できているのは、安定した出荷量や品質の高さを維持し、長年にわたり基盤構築をしてきたためです。

今後も自信をもってお届けできる農産物を生産し、より多くのお客さまに三島甘藷を知ってもらい、地域全体の農業経営を発展させるビジネスモデルの確立を目指していきます。

